

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	中津川市駒場1666番地の3965		
自己評価作成日	令和元年6月25日	評価結果市町村受理日	令和元年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すべてのお客様の「幸福な老い」を実現する笑顔あふれる「人生」を楽しめる場所
サンシャインプレミアム中津川では、お客様の一人ひとりの「生活の質」を向上させるため、身体機能を回復させるトレーニングマシン、趣味・娯楽の時間を充実させる麻雀やカラオケの導入など人生を楽しむ多彩なプログラムをご用意しています。
また、先進テクノロジーを導入した安心・安全とプライバシーの向上を実現した生活環境をご提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな場所にあり、利用者が四季の移り変わりを感じながら、穏やかに暮らせる環境である。開設2年目ではあるが、近隣住民や行政の協力を得て、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら、生活の質を向上させるため、様々な取り組みをしている。業務の効率化にも力を入れ、職員が利用者とうっくり過ごすための時間を確保したり、職員間で、利用者の状況を検討する時間を持つよう工夫している。トレーニングマシンを使ったりハビリティも取り入れながら、利用者自身が身体機能の回復や維持の為に目標を設定し、達成する喜びも味わえるよう支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関や朝夕のミーティングを行う事務所のテーブルの上に貼り、また管理者の指導を受けながら理念を共有し、実践できるよう心がけている。	朝夕のミーティングで、管理者と職員が理念の意義について話し合っている。職員同士は日々、コミュニケーションを取りながら、理念の実践が出来ているかを常に意識し、利用者へ今日一日をどう過ごしてもらうかを検討している。	理念の意義について、日々の暮らしの中で、利用者も共に実感できるように、職員間で話し合い、それらを共有できるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり地域の方に施設内の行事に参加して頂いたりすることで地域とのつながりを保っている。	地域の様々な行事に参加している。また、区長の協力のもと、事業所の行事に地域高齢者の参加を得て、交流している。地域の高齢者にとっても、ホームの行事に参加することで、外出の機会となり、より良い相乗効果が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加を地域の方に呼びかけ参加をしていただくことで利用者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の会議に参加し利用者の生活状況、サービスの実際等を報告し意見をいただいている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議では、参加者から地域の情報や事業所に対する提案など、様々な意見が出されている。それらの意見を全職員で共有し、事業所運営に活かしている。	運営推進会議は、「身体拘束等廃止委員会」を兼ねて開催している。地域住民、家族、利用者も参加できる機会を設け、行政や地域住民に、現場の声を伝えられる場となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議会議に出席して頂き意見をいただいている。	市の担当者は毎回、運営推進会議に出席しており、事故報告やアドバイスを受けるなど、気軽に相談できる関係である。消防署職員からも緊急時の対応方法について、助言を得ながら良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議会議、全体職員会、ミーティングなどで周知し厳守できるように取り組んでいる。	身体拘束等廃止委員会を運営推進会議と併せて行っている。やむを得ない場合も対応方法を工夫し、外部の意見を聴きながら、廃止に向けて取り組んでいる。家族へは身体拘束をしないケアの取り組みについて理解を得られるよう働きかけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会で話し合い職員が意識し合い注意している。		

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネなどの専門職は知っているが、介護職員の理解についてはまちまちです。これからの課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にはマニュアルで説明を行い理解納得を図っている。利用者家族の考えを聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせて頂いている。家族の来所時、意見を聞き繁栄に努めている。	家族の訪問時には職員だけでなく、計画作成担当者や看護師が対応することもあり、利用者や家族の要望を聞いている。それらを職員間で共有し対応している。管理者は、毎月、利用者の状況を家族に電話報告をする際に、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会、ミーティングなどで意見を聞く機会を設けている。	会議やミーティングの際には、職員同士が意見交換し、必要に応じて代表者が個別で話をする機会も設けている。職員の経験年数の差もあり、意見が食い違うこともあるが、お互いに認め合い、意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長や施設長との面接は年1回実施され意見・要望を聞いている。また外部コンサルタントとの面接も導入されて個人個人の意見を把握して、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には研修期間は日々担当者をつけて指導をしている。個人個人に合わせた資格取得のための研修やグループホーム部会などの研修会など内外の学習会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会やケアマネ部会の研修などに参加したり、機会があるごとに他のグループホームや小規模多機能と訪問しあって交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談を行い思いや要望等を聞いた上で安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や面談を行い思いや要望等を聞いたり、施設見学で環境を見ていただいて安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の本人や家族との会話や状況から、まずどんな支援が必要なのか、何を優先するのかを見極める対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や意思を把握し、入居者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら連携し本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、家族、親戚の方との面会や行きつけの美容院などへの外出は関係が切れないように努めている。	家族と一緒に外食や美容室など、馴染みの場所へ出かけている。友人との関係も継続できるよう、訪問時には居室でゆっくり過ごすことが出来るよう配慮している。事業所の行事を通して地域住民との馴染みの関係も築けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが情報を共有しながら、利用者同士が支えあい助け合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談など支援していくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の希望や思いを、会話や表情などから把握し、ミーティングで共有し家族からも情報を得ている。	外泊の希望があれば、家族の協力を得て柔軟に対応し、可能な限り利用者の思いを実現できるよう支援している。積極的に意思表示ができる人も多く、毎朝、掃除の時間を設けるなど、一人ひとりが役割を持って、思いや意向を実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの状況を本人や家族から情報を得たり、ミーティングや日々の生活の中でも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人の行動、会話、表情などやミーティングで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、スタッフに意見を求め、家族の意見も反映するようにしている。	介護計画を作成する際は、利用者や家族の意見を聞き、職員や看護師の意見も反映している。介護計画と介護記録が連動したものとなるよう工夫し、いつでも確認できる介護計画の実践とモニタリングを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録をスタッフ間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に応じ、外泊や外泊に対応している。		

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、ボランティアの音楽会には地域の方も施設に来ていただきみんなで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を大切に、希望された方は契約医療機関の医師に定期的に往診を依頼している。在宅のかかりつけ医を希望された方については通院を家族の協力をお願いしている。	入居前のかかりつけ医を継続できることを家族に説明している。従前のかかりつけ医や専門医を受診する際は、家族対応とし、受診結果は看護師が把握して対応している。薬剤師とも連携を行い、服薬の助言を職員と共有しながら適切なケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職に伝え主治医の指示や受診ができるよう支援している。また看護に即した介護の方法について看護師から指示を受け利用者への気づきができる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に行ける職員が、誰でも寄って励ましたり施設の様子を教えたり、病院での様子を職員で共有し医師と退院のタイミングを図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用申し込み、入所契約時に本人や家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。状態の変化があった時は家族や主治医との連携を密にする。	契約時に、事業所の指針を本人・家族に説明し、理解を得ている。現在、看取り介護は行っていないが、医療機関と事業所間での連携を密にして、状態変化があった場合にはスムーズに対応できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身に付けるため研修を実施している。また介護の浅い職員には、個人的に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回 消防署などの指導を受け実施した。地域との協力体制を築いていきたい。	事業所は、災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定を、4月に市と締結している。また、災害時の地域連携については不十分であるため、消防署や自治会の協力を得ながらこれから体制を整えていく状況である。	夜間の災害を想定した訓練を行い、夜勤者が災害時にどのように対応すべきかを全体で確認し、安全確保ができる体制を整えておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある言葉かけを心がけ、家庭的な和やかな雰囲気になるようにしている。つまたプライバシーに注意して羞恥心を傷つけないように配慮している。	家庭的な暮らし方を意識した雰囲気作りに努めている。共同生活ではあるが、一人ひとりが主役であることを考慮し、一人になれる空間を確保できるよう、居室の施設は自由としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り自己決定できるよう支援している。家族への電話、さんぽなどは本人の希望にそって支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の基本的な流れはできているが、個別ケアを心がけて支援している。利用者への声掛けを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが一緒に用意できるよう常日ごろ心がけている。必要品の申し出があると希望で職員が買い物に行ったり、買い物同行支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には一緒に買い物にでかける。調理、盛り付け、片付けなど分担しながら一緒にかかわっている。好き嫌いなどを把握し、糖分、塩分を控えた食事をスタッフと楽しんで食事をしている。	利用者も一緒に、食材の買い出しや下ごしらえなど、できる範囲で手伝っている。献立には、利用者の好みを取り入れながら職員が調理し、共に楽しく食事をとれるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を点検し変化があるときは栄養摂取や水分確保ができるよう看護師とともに工夫する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきなどの口腔ケアを実施、声掛けを行っている。また本人の状態に応じて職員が介助おこなう。個々の希望に応じて歯科医師などの往診時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スマホ入力により排せつの間隔が把握できるのでトイレ誘導に活かして、おむつの使用を減らす支援につなげたい。	排泄記録をスマホで管理するシステム導入により、職員間で情報の共有がスムーズに行われている。利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせ、声かけと誘導、見守りにより、トイレでの排泄の習慣化と自立を支え、排泄用品の負担軽減にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スマホ入力により排せつの間隔が把握できるので水分の補給や野菜や繊維の多い食品等を利用したり、協力医の指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を大切に気持ちよく入浴していただけるよう支援している。面会時には後にしたりしている。	利用者の希望を聞きながら、週2回以上の入浴支援を行っている。入浴時には一人ひとり湯を入れ替え、衛生的で気持ち良く入浴を楽しむことができ、利用者の満足度も高い。個浴と機械浴を備えており、利用者の状態に合わせて、安心・安全な形態を選択して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の入り口はドアになっていて、リビングなどの雑音が入りにくく静かに眠れる様な構造になっている。昼間はソファで休んだり横になり休息できる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の症状に異常がある時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。薬の変更があったときには申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて、役割・楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や状態に合わせて、外出や散歩の希望や楽しみを支援している。雨天時はホームの廊下を散歩したり、暖かい日は庭でお茶会をして楽しんでいます。	周囲にはブドウ畑や栗の木がある。それらを眺めながら、日常的に職員と共に散歩している。また、職員と一緒に、喫茶店や買い物に出かけることもあるが、個々の利用者が満足できる外出支援ができていないことが課題となっている。	日々の散歩に加え、利用者一人ひとりの要望を聞きながら、個別の外出支援にも対応できるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて支援している。預かっている時も支払い時本人にかかわって貰うなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちを尊重し支援している。家族等にも理解していただいている。自分で手紙を書いたり、携帯電話を所持しているかたもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターに草花を植えみんなで水やりをして季節を楽しんでいる。柔らかな灯りリビングで好きな飲み物を一緒に飲む。ほうば寿司や栗ご飯など四季折々の土地の食べ物などで季節感を表している。	自然素材のぬくもりが感じられ、明るくゆったりとした解放感ある空間である。対面式キッチンと事務所の間に、ダイニングやリビングなどの共用の場が設けてあり、職員が利用者を見守りやすい環境である。利用者は、好きな場所で寛ぎ、テレビを見たり、カラオケ設備を利用して楽しく過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、自由なスペースを確保し自由に団らんしている。居室で気の合った仲間同士団らんしている。好きな時に自由にお茶をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもので居心地よく過ごしていただけるよう家族等に願っている。本人と家族は自由に部屋づくりをしている。	利用者と家族が相談しながら馴染みの物品を持ち込み、自由に配置して、寛げる空間づくりをしている。居室には洗面台が設置されており、毎食後の歯磨きは居室で行うことができ、私物は、クローゼットで整理整頓されている。また、見守りセンサーを設置し安全配慮にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報交換をしながらその人らしく生活が送れるよう支援している。職員が本人にお手伝いする気持ちの関係づくりを心がけている。		